

平成 30 年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書 (2)

第 2 回「都市近郊の里山保全活動に学ぶ」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題 名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第 2 回「都市近郊の里山保全活動に学ぶ」 講義：「都市近郊林の管理」 実習：「豊富どんぐりの森活動地の見学」
日 時	平成 30 年 7 月 29 日 (日) 10:00~15:30
会 場	講義：船橋市北部公民館 実習：豊富どんぐりの森活動地
出席者	受講生 24 名 (8 市) ・講師 6 名 ・スタッフ 1 名
内 容	10:00~12:00 実習：「豊富どんぐりの森活動地の見学」 講師：豊富どんぐりの森 代表 俊 淳一 大隅 崑一 13:00~15:30 「都市近郊の里山林の管理」 講師：船橋市 NPO 法人コピスクラブ 元代表 中島守男 松戸市 松戸里山応援団 高木喜久雄 八千代市 里山むつみ隊 隊長 佐藤孝之 事務局長 山崎典昭
報 告	<p>午前中の豊富どんぐりの森活動地の見学は、最初に 15 年に及ぶ活動の概要説明を受け、その後 2 班に分かれて、俊氏、大隅氏の案内で活動地内の主なポイントを見学した。</p> <p>約 5 ヘクタールの活動地を、目的に沿って手入れする区域と手入れをせず経緯を見守る区域に概ね半分ずつに分けて管理しており、両者の境界部分ではその差が一目瞭然だった。</p> <p>整備内容については過剰整備にならないよう高木、低木をバランスよく配置して生物多様性に配慮している一方、通称子ども広場については、幼児や低学年でも安心して遊べるよう丁寧な整備がされていた。</p> <p>最後に樹高 20 メートル余のイヌシデの伐採を見学した。伐採の手順、特に安全確保について詳細な説明があり、初心者には貴重な機会となった。伐採に際しては、事前に周辺木を伐採し、当該木はワイヤーロープで牽引するなど安全に配慮された伐採であったが、結果的にかかり木となり伐採作業の難しさを実感する実習となった。</p> <p>その他にも、地主とも関係、立ち入り者のコントロール、作業道路のあり方など示唆に富んだ内容だった。</p> <p>午後からは北部公民館の会場を移し、船橋市、松戸市、八千代市の代表的な活動団体から、その活動状況の報告があった。</p> <p>(1) NPO 法人コピスクラブ (中島氏) ○平成 17 年発足、同年 12 月に NPO 化 発足時会員は 45 人で現在は 25 人 ○船橋市北部の約 100 ヘクタールの森林について森林施業計画 (当時) を樹立し、5 年間で整備が一回りする内容になっている。</p>

○活動日は月 8 回とし、平日と休日が含まれ、現役世代も参加しやすい仕組みとしている。また、8 月は活動を休止し、夏場は 30 分作業したら 15 分の休みとし、更に午前中で作業を切り上げるなど、参加者の体調維持には万全を期している。

○林野庁の補助金と森林所有者からのヘクタール当り 30,000 円の謝金を原資とし、参加者には一定額を支払っている。

○竹林は伐採後、クヌギ、コナラなどを植栽しているが、伐採後も 3 年程度徹底管理すれば、竹林は制御できると実感している。また抵抗性アカマツを植栽した場所もあるが、松くい虫被害が出ており対応に苦慮している。

○これまでに、農林水産大臣表彰など多くの表彰を受けている。

○同様の組織は全国にいくつかあったが現在は当会のみと聞いており、会員の高齢化などもあり課題は多いが、新たな仲間を募り今後とも着実な活動を続けたい。

(2) 松戸里山応援団一起の会（高木氏）

○松戸市は里山ボランティア養成講座を 10 数年継続している。各期の卒業生はほとんど新たな里山活動団体を結成しており、その連絡会が松戸里山応援団である。各団体は松戸里山応援団〇〇の会と名乗っており、一起の会の名称は養成講座一期生に由来する。

○各団体とも、1 ヘクタールに満たないフィールドでの活動が大半だが、住宅地と隣接する都市部ならではの苦労が多い。相続税対策での売り払い、落ち葉への苦情、子ども達の歓声に対する苦情など、里山活動団体の努力では解決できない問題も多い。

○7 年前から各フィールドの一斉公開、活動日の公開、森めぐりツアーなどを同時期に実施する「オープンフォレスト」を実施し、今年度は 3000 人余の参加者があった。

○市と各団体で実行委員会を作り、積極的に市民に公開することで、情報発信と地域理解の増進に大きな効果が上がっている。

○他団体と連携して実施する「3 歳児と森を楽しむ活動」や希望者に竹を届ける「七夕プロジェクト」など、新たな活動も始まっており、「里山活動は地域おこし」の視点で今後も取り組んでいきたい。

(3) 里山むつみ隊（佐藤氏、山崎氏）

○八千代市の里山ボランティア養成講座は 7 年目であり、むつみ隊はその一期生である。

○当初は繁茂するアズマネザサの刈払いや序間伐などがメインであったが、次第に利活用を踏まえた多様な森づくりへとシフトしてきている。森づくりから出た伐採樹等は、シイタケ原木、林内歩道、簡易な橋、ビオネストなどとして、竹材は竹柵などの材料として積極的に利用している。

○下刈りについては、動植物の多様性を保全するため強弱をつけて実施したり、キンラン、ヤマユリ、ヒトリシズカ、ジュウニヒトエ、フデリンドウなど、それぞれの環境に即した希少種が安定して見られるようになった。

○小学校の親子を対象に森の中で様々な自然体験をするプログラムや、中学生の体験学習の一環として里山活動に参加するプログラムなどを実施し、地域の未来を担う子ども達に里山の楽しさと重要性と伝える活動に力を入れている。

○市民祭りや福祉まつりなど、地域のイベントにも積極的に参加して里山活動の情報発信をするなど、地域との交流を強化している。

添付資料（写真）



鈴木副理事長の挨拶とガイダンス



俊講師、大隅講師の挨拶



どングりの森へと分け入る



森の特徴、樹木の説明等



森林の整備方針の説明を聞く



大隅講師による模範伐採



伐採途中での説明と検討



参加者全員で記念写真



午後 室内講習の状況



中島講師（コピスクラブ）



高木講師（松戸里山応援団）



佐藤講師（里山むつみ隊）